

『おおいしだめとんとむがすあつたけど』⑬

道者清水すず（どしやすず）

大石田の来迎寺らいごうじと呼ばれる地区には、たくさんの泉が湧き出ております。

その中でも一番大きな清水すずの水が一番うまいという土地の人々の評判でありました。

この清水すずの側わきには、三山参りに通ずる道路があつて、ここを通る旅人の多くは、この清水の所で一休をして、この水を飲んだといひます。

この清水を現在は「どや清水すず」と呼び、今なお残っております。正しい呼び名は「どしや清水」と呼ぶのですが、長い間人から人へ口伝えに伝わって行くうちに、「どや清水」となまってしまつたらしい。

「どしや」というのは旅人を意味するといひますので旅人の飲む水ということでこの名がついたのであると思ひます。

昔、昔のこと、ここを通りかかつた坊様が一人、この清水のところまで水を飲み、ゆっくり一休みしておりました。旅で疲れた坊様は、この水を「ゴツクン」と一呑ひとのみした時に、腹の底まで浸み渡るわたような冷さで、とてもうまかつたのです。この清水をなんと呼ぶのかわからなかつたので、土地の人に「この清水なんと呼ぶのだ？」と聞いたところ、土地の人は「どしやすず」といつたのだらうが、発音が悪かつたのか、

坊さまは「どや清水」と聞いてしまいました。近郷近在きんきょうきんざいを旅している時に、「『どや清水』の水はどうまい水を



飲んだことがない」と旅行く先々で話をしました。そうしたら、近郷近在から、病気で床に伏している者に飲ませる水といつて、多くの人々がこの清水に水汲にくるようになり、近郷近在に知れ渡つたそうです。

○出典『北村山地方の民話（伝説編一）』

（滝口国也編著、一九九〇年）

導者とは、出羽三山参詣者のことです。通常は「道者」ですが、大石田では「導者」と表記されています。江戸時代安永元年の「惣町覚書」という古文書には、横山来迎寺地区の清水に関する記述が残つており、昔往来する導者がここで一休みし、月山へ登つたとされています。寛文・元禄期には、羽州街道が整備され、寺社参詣を名目とした旅行者も増え、最上川舟下りを含む大石田経由の経路も栄えました。旅の道中においては飲料水の確保が大切で、清水は重宝されたことでしょう。

また、導者清水は、昭和初期まで地域住民の生活用水としての関わりが深く、野菜を洗つたり、臨終の際の末期の水として用いられたりしました。平成に入つてからも、側溝を作り雨水が流れ込まないようにするなど地区で整備されてきました。

最上川と共に、生活に欠かせないものとして、また、旅人のよい休み場として、清水は歴史の跡を残しています。

○参考文献『大石田町史 上巻』（大石田町刊、一九八五年）

『来迎寺歳時記』阿部与二郎編（一九八九年）

『広報おおいしだ縮刷版三九四号〜五二五号』

（山形県大石田町刊、二〇〇〇年）

町の人口 令和3年8月1日現在

世帯数	2,304 戸	(-3)
総人口	6,601 人	(-12)
男	3,257 人	(-7)
女	3,344 人	(-5)

(7月中の異動)

出生	4 人	転入 3 人
死亡	8 人	転出 11 人

※この数字は外国人数も含めた数字です。

防災放送の内容を 電話で確認できます

防災放送が聞き取りにくい、放送内容を確認したい等のご意見をいただき、町では防災放送確認ダイヤルサービスを開始しました。

このダイヤルは定時（夕方6時のメロディ等）放送を含め、直近の放送から8時間以内の内容を順次聞くことができます。

確認ダイヤル：0237-48-8444

■総務課総務グループ TEL.35-2111（内線218）

大石田町公式アカウント開設

LINEはじめました

防災情報などを
受け取ることができます。

**友だち登録を
お願いします!**



登録方法

右のQRコードを読み取って友だちに追加してください。



大石田町公式LINE